

あいぶらんど通信

2011年
9月19日(月)
NO. 25
あいぶらんど運動
推進委員会発行

あいぶらんど運動推進に向けて

職員懇談会が開かれました

8月23日夕方、あいぶらんど運動推進委員である組合員理事と事業部リーダー(配送職員)との懇談会を行いました。当日は、オブザーバーで鎌田醤油㈱の鎌田専務も加わり、「あいぶらんど推進」について活発な意見が交わされました。「あいぶらんど」であるパスちゃん牛乳を飲みながら、皆さんお馴染み夏野菜どっぴん漬け・煮卵・餃子の皮ピザ・きゅうりを仙台みそで頂きながら、懇談会は進みました。

毎日配送で多くの組合員の方に会っている職員がどんな会話をしているのか、あいぶらんどの話題性など日々の配達の中の様子を伺うことが出来ました。その中で「放射能測定値」「安全性」を聞かれる事が多いとのことでした。組合員さんの問いかけに「あいぶらんど」を組合せて具体的にどのように説明していくべきか話し合いは、進行了ました。

「サバイバルご飯」の募集も多くの組合員さんから頂きました。会話のきっかけとしてだけでなく、「震災の記憶」を記録するものとして、多くの情報が集まっています。震災当初を思い出して頂きながら、

改めて「あいごはん」のありがたさを実感出来たという意見もたくさん頂きました。ご協力頂き、ありがとうございました。

さらに、この懇談会では、各エリア毎に職員による「あいぶらんど推進委員」をおけばよいのではないか?というリーダーからの積極的な意見も出され、具体的な動きが始まりました。事業部に「あいぶらんど推進委員」6人決まりました。職員同士や職員と組合員、組合員同士互いにあいぶらんど運動、「あいごはん」の会話をすることが大事という話し合いにもなりました。「あいぶらんど」を利用することが生産者を支えることに繋がります。そして、東北の復興にも繋がっていくことと思います。まさに、この活動が本当の意味で生産者と組合員と職員が三位一体になる時なのかもしれません。

この懇談会を通じて、連携の大切さを知り、あいぶらんど推進運動を盛り上げることがあいコープの未来に繋がると感じた懇談会でした。

あいぶらんど運動推進委員 高橋 千佳



懇談会の様子
(話にも熱が入りました)

職員コラム

あいぶらんどとあいごはんと私

私の生まれ育った宮城県は自然にあふれ、海の幸、山の幸に恵まれた美しい街並みでした。その街並みは3.11の震災以降壊滅的な打撃を受けました。田畑には瓦礫が散乱し、工場は津波に流され、私の生まれ育った街並みは変わってしまいました。

震災後、一番苦労したのが食事だと思います。ご家庭にある食材を工夫しやりくりしたことは記憶に新しいと思います。私はあまり料理が得意でないのですが震災後に覚えた、とっておき料理を紹介したいと思います。

用意する物は<手揚げ油揚げ、手塚さん3納豆、国産丸大豆醤油、薬味>です。まず、納豆に薬味を入れかき混ぜます。次に手揚げ油揚げを半分に切り広げ先ほど作った納豆種を入れ込みます。(この時に楊枝でとめて下さいね)後はフライパンで狐色になるまで焼けば、嶺岸風きつね揚げの出来上がり!

復興への道のりの中で今私が出来ること、それは食<あいぶらんど>を通じこれまでの生活を見直すことだと思います。地元(東北)で取れた食材を自らが食べ伝えて行くことが復興への第一歩だと思います。<あいぶらんど>を食べ震災復興に向けて鋭気を養いましょう。

事業部 供給課 青葉A地区リーダー 嶺岸 大慈

詳しく解説 あいぶらんど の お米

みんなで
あいごはんを
つくろう!



届けよう、あいごはん。 作ろう、あいごはん。
頂きます、あいごはん。 ありがとうございます、あいごはん。

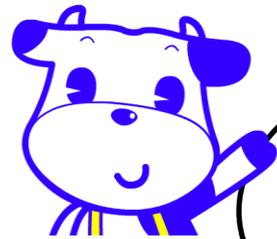


【品質】

あいコープのお米の、農薬使用については、特別栽培（各自治体で使用が認められている農薬の半分まで使用可）が最低ラインです。そして、環境保全米も、同じ水準です。これはこれで、大切なことです。が、あいぶらんど米は、そこからまた一步、今年は「ネオニコチノイド系農薬を使わない」ことに挑戦しました。 田んぼで、カメ虫防除で使われる「ネオニコチノイド系農薬」。田んぼにはいろんな生物が生息していますし、鳥や蜂が水を吸いにきます。神経系に異常をきたすことが分かっているネオニコチノイド。昨今の「ミツバチが消えた」原因とも言われています。しかし、これを使わないと、カメムシ被害で、斑点米が出来てしまうのです。が、斑点米は食べても、何の支障もありません。かえって、ネオニコチノイドを使わないことで安全度がアップして、安心なのです。

「あいぶらんど」であることの

ポイントは 右の3つ です **【産地】**



地産地消と旬に
こだわります。
地場の志ある生産者と共に
育てる商品です。

美味しさと素材の
良さにこだわります。
安心・安全な商品です。

みんなで利用し、地域に
広めていきたい商品です。

【利用】

私たちの望みをかなえて、ひと手間も、ふた手間もかけたお米には、適正価格があります。「豊作だから、安いほうをこっちやえ！」とみんなが走ったら、せっかくの本物の安心でおいしいお米がもったいない。安売りなんて、出来ません。「適正価格」の中には、農作業、資材、他、まさに生活がかかっていることを理解しましょう。一人ではできないことを、みんなで力をあわせて持続可能にしていくのが生協です。そして、お友達にもすすめて、良さを分かってもらえば、その輪は社会に広がります。

あいぶらんどのお米の生産者は、
☆大郷みどり会 ☆迫ナチュラルファーム ☆七郷みつば会
の県内3産地です。

あいコープの生産者は、土と水の学校で土壌検査の重要性を学んだり、循環型農業の実現に向け、地元の土壌菌を生かすBM活性水を利用した農業に取り組んでいます。また、地元生産者ですから、地区活動での生産者交流が出来たり、「えんのう」が作業に入ったり、キッズもお世話になりと、組合員との繋がりも密接です。

あいコープでは、放射性検査を行い、出荷します

全ての生産者の圃場の土壌放射能の自主検査を実施・確認した上で、収穫したお米は全て公的機関で放射能検査を行い、「検出せず」のお米だけを出荷してまいりますのでご安心下さい。

あいコープの産直米の放射線量検査の流れ、及び、イネにおける放射性物質の移行係数についてなどは、今週配送の子供たちのために脱原発を進める委員会のお便り「Clean Peace Letter」をご覧ください。